中島淳先生を偲んで

木下　實三

中島さん、向こうに行くのが早すぎませんか?　私より4つも下で、まだまだ、業界のため、社会のために働いて貰わなければならず、コロナで遊び足りない分をこれから楽しく一緒に過ごしたかったのに、残念です。

中島さんとは、弁理士試験の合格以来、50年近い年月を公私ともに親しくお付き合いさせて貰いました。中島さんは、努力の人であり、自分にも他人にも厳しく接していたと思います。厳しいと言っても決して冷たい訳では無く、業界で困った人などには、温かい手を差し伸べていました。しかし、やるべきことはいろんな困難にもめげずにやる厳しさです。その厳しさが、今の太陽国際特許事務所の発展に繋がり、日本弁理士会会長を始めとする業界の要職を務めた要因と思います。また、事務所や業界の大変な仕事をこなしながら、土日も休まず、学問を究め、ご自分の専門である機械系とは異なる情報工学系の博士号を取得されたのは、驚異的でした。加えて、いろんな分野の情報に詳しく、各種会議などで、その知識に基づいた的を射た発言にも常に感心させられました。

中島さんにも、いろんな悩みや苦労があったと思いますが、そのようなことは一切、表に出さず、淡々といろんな仕事をこなされていたのも素晴らしいと思います。しかし、そんな悩みや苦しさを外に出さず、お酒や遊びに紛らわすこともないことが、中島さんの寿命を削っていたのではないかと思います。もっと強引にいろんな遊びにお誘いし、少しでもリラックスさせてあげたらと、残念でなりません。

ゴルフを最初に教えてくれたのは中島さんでした。ゴルフ場での最初のプレイも、中島さんの当時のホームコースだった大相模カントリークラブでした。車の無い私を、片道2時間近くも掛けて快く送り迎えもしてくれました。その後も、折に触れ、ゴルフをご一緒させて貰いましたが、最近は膝や腰を痛め、中島さんのホームコースでのプレイを計画していたのに、実行できなかったのも心残りです。

私もそう遠くない将来にそちらに行きますので、膝や腰の心配も無く、思い切って、一緒にゴルフを楽しみましょう。待っていて下さい。それまで英気を養い、安らかにお眠み下さい。

合　掌

→次頁 「中島淳先生を偲んで」 山川茂樹先生

中島淳先生を偲んで

山川茂樹

弁理士クラブ会員で、元日本弁理士会会長の中島淳先生が、去る令和4年5月22日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

中島先生が身近な存在となるのは、平成18年の日本弁理士会の役員選挙において、中島先生を会長候補に担がせて頂いてからだと思います。当時、小生は弁クの幹事長を務めさせて頂いていました。無事、中島先生は会長に当選され、故あって小生も翌年の副会長の一人としてお仕えすることになるのですが、印象に残っているのは、中島先生が弁理士業界のことを第一に思い、明確なビジョンと確固たる信念をもって多くの懸案事項に取り組まれる姿でした。「ビジョン」、「信念」、「実行力」は、リーダーに求められる資質として今でも自分の生き方に影響を与えていると思います。

会長退任後も、その活躍の場は弁クや日本弁理士会はもとより、いわゆる知財業界全般に広く及んでいたことは皆さんもご存じのとおりです。中島先生は、小生のような者にも、お電話を下さり、「山川さんね、ちょっと相談があるんだけど」といった調子で、クラブや弁理士会の運営に関して意見を求めて下さる方でした（こういうときは小生も何らかのお手伝いをさせて頂くことになるのですが。）。日本弁理士会の役員として奔走していたこと、あるいは日本弁理士会のワーキンググループ（WG）で中島WG長の下で副WG長として活動させて頂いたことは懐かしい思い出です。今でも中島先生からお電話を頂戴し、「山川さんね、ちょっと相談があるんだけど」と始まるような気がします。

中島淳先生より頂いた数々のご恩に心から感謝し、追悼の言葉とさせていただきたいと思います。中島先生、ありがとうございました。

→次頁 「中島淳先生を偲んで」 山本晃司先生

中島淳先生を偲んで

山本晃司

私が中島先生と初めてお会いしたのは、私が弁理士試験に合格した 1990 年の弁ク主催の合格祝賀会でした。もっとも、中島先生を知ることになったのはそれよりも前、私が浜松のメーカーに勤めていた時期でした。当時、弁理士になることを模索していた私は、地元で開業されていた弁理士の方に相談に伺いました。その折に、弁理士を志望するなら東京に行った方がよい、浜松で一緒に受験勉強した仲間でいまは東京で開業している者がいるから、自分の名を出して一度訪ねてみたらよいのではないか、との助言を頂きました。その仲間というのが中島先生でした。合格祝賀会で中島先生とお話させて頂く機会があり、その件をお伝えしたところ少々驚かれたご様子であったことをいまでも鮮明に覚えています。

その後、中島先生とは同郷のご縁もあって、弁クや弁理士会の活動を通じてご指導頂く機会を多々賜りましたが、そのお人柄に深く接することができたのは、弁理士会の会長を務められた 2007 年度及び 2008 年度の2年間でした。私は、1年目に執行理事、2年目に副会長として中島執行部でご一緒させて頂きましたが、その2年間を通じて多くのことを学びました。中島先生は、いつも温厚なイメージがありますが、その一方で弁理士という職業に対する自負、使命感について誰よりも強く熱い思いを抱いていた方であったように思います。その思いを実現するため、会長としてどのように振る舞うべきかを、感情に左右されることなく、大局的な視点、卓越したバランス感覚で判断し、実践する姿勢に、私のような未熟者は敬服するばかりで、私など到底足元にも及ばない絶対的で別格のリーダーでした。

会長退任後も、中島先生は弁理士会の会務はもとより、知財戦略本部員等の公務を務められ、その一方で弁クに対しても欠かさず関心を寄せられていました。いまとなっては数々のエピソードが思い返されますが、私には、知財戦略本部員の退任が決まり、私の随行員の職務も終了とのお電話を頂いたことが忘れられません。口調こそ穏やかなものの、珍しく(唯一であったかもしれません。)寂しげな話し振りであったことが強く印象に残っています。弁理士としての矜持から強く思うところがあったかと察した次第でした。

中島先生の突然の訃報に茫然としてからもう2月が経ちました。私はいまだ整理がつきません。中島先生が思い描いていた弁理士の将来像にどこまで近づいたであろうか、道半ばでのご逝去はさぞかしご無念であったろうかと心が痛むばかりです。残された我々は、弁理士としての矜持を忘れることなく、中島先生が目指した将来像に少しでも近づけるよう精進を重ねることがせめてもの恩返しになろうかと思います。もう直接にご指導を賜ることができないのが残念でなりませんが、中島先生のことですから、高いところからいつもながらの温厚さで我々を見守って頂けるものと信じています。中島先生、これまで本当にありがとうございました。どうか、安らかにお眠り下さい。

→次頁　在りし日の中島淳先生

弁ク旅行会(2017 年 6 月・伊東暖香園):写真提供　木下實三先生

写真提供:中島崇晴先生

春の園遊会